

質問時間 90分

椎名 義光 議員

空港機能拡充論と 町の基本姿勢は

慎重かつ丁寧な対応が求められている



成田国際空港より離陸する旅客機

成田国際空港問題について

問 昨年暮れに突然新聞報道された30万回発着可能という話は周辺地域住民に衝撃を与えました。また、多古町への新たな騒音が広がることも予想されます。この報道について、町長はどう受け止め、行動をしたか伺います。

町長

まず、1点目の直進上昇、直進降下の確認事項でございます。進降下の確認事項は、新東京国際空港建設中の昭和48年5月当時の運輸大

臣が、千葉県知事からの要望に対し、九十九里から利根川までの間の直進上昇、直進降下については、要望に沿うよう措置するとの文書回答をしたものです。今に通じているものであります。千葉県の空港担当課からは、今後これを変更するようなことが協議されているという話は聞いておりません。これを変更するときは、飛行コースが変わるときだと思っております。したがって、新たな騒音地域を生むことでもありますから、周辺地域住民に対して、十分な説明をすることはもちろん、その理解と同意のもとで騒音対策がなされなければいけないものであると考えております。

次に、発着回数に関する件でございますが、22万回は、平行滑走路の北伸整備に伴って、国、県、成田国際空港(株)及び地元自治体の4者間で、平成18年9月に合意したものであります。多古町は北伸整備により、騒音の影響を受ける地域、第1種地域が拡大したわけですが、住民被害に対しては、現在も、そして今後北伸平行滑走路が供用される平成22年3月以降においても、制度の中で、十分な対策を実施してまいっている所存であります。

また、発着回数の増についてですが、これには新たな合意形成が必要であることは言うまでもありません。そして、やはり周辺地域住民に対する十分な説明と理解、万全の騒音対策が必須の要件であります。ですから、慎重かつ丁寧な対応が求められると考えております。

問

成田市が京都大学と協力して行なった「地域の環境と生活に関する調査」は、大変興味深く有用です。同様の調査が今後多古町においても必要になってくるのでは

ありませんか。

町長

私も航空機騒音が人体に与える影響や健康との因果関係を明らかにし、科学的であるいは医学的に分析することは、大変重要で意義のあることだと思っております。しかし、必要性を感じつつも費用負担のことを考えますと、実施に踏み出せない状況です。また、多古町だけの単独調査ではなく、周辺市町との合同調査とすることなども手法として考えられますので、それらも視野に入れながら、今後の研究課題とさせていただきます。